

受 賞 者 紹 介

(推薦調書より抜粋)

<技術改善部門>

長 縄 光 延

<農業・農村振興部門>

飯 田 喜美子

技術改善部門



春日井市

なが なわ みつ のぶ
長 縄 光 延

長縄光延氏は、昭和45年に愛知県の職員として採用されて以来、果樹生産の技術普及に携わり、特に農業改良普及員時代から一貫して愛知県の特産であるイチジクの栽培技術の向上や産地育成に力を注いできました。

イチジクの果実は傷みやすいことから、品質を保った状態で消費者の手に届けることができる、低温流通システムの確立が産地にとって大きな課題でした。このため長縄氏は、昭和56～58年に、農業総合試験場、安城農業改良普及所（当時）、JAあいち経済連を構成員とするプロジェクトチームに参画し、差圧予冷による処理後、保冷車で運搬することにより品質が保持されることを実証し、現在にも続く「産地の低温流通システム確立」に貢献しました。

平成18年からはJAあいち経済連の技術主管として園芸部に在籍し、それまでの経験を活かした果樹生産の課題解決に尽力してきました。近年では、県農業総合試験場との共同研究である「イチジク株枯病抵抗性台木を利用した生産安定技術の確立」への技術指導や、優良母樹の確保や苗木増殖、さらに、安定収量確保のための雨よけ栽培の普及にも取り組み、産地導入マニュアルの作成等も主導してきました。

また、JA営農指導員の育成や現地指導会の支援、農業改良普及員との連携による新規生産者の育成に対しても尽力し、平成27年に開校した「JA西三河いちじくスクール」では、設立から運営・栽培技術面での指導に携わってきました。

このように、長きに渡り、愛知県イチジクの産地振興に大きく貢献しており、現在も生産者への技術指導や生産者育成に尽力しています。

農業・農村振興部門



愛西市

飯田 喜美子

飯田喜美子氏は、現在、酪農[飼養頭数50頭]を主体に水田80a、露地野菜30aを家族で経営しています。昭和46年の結婚を機に、海部郡八開村（現 愛西市）で就農し、農業経営ではパートナーシップを發揮し経営主を支えるとともに、昭和48年には、海部地方生活改善実行グループ連絡研究会（現 農村輝きネット海部）及び酪友会グループ（現 酪農女性部）に加入するなど、女性の地域・社会参画の機会があると自ら率先して参画し、家族と地域の信頼を得てきました。

昭和55年に地元の小学校で、文部省主催の教育指定校全国発表会が開催され、PTA代表として参加・発表を行ったことをきっかけに、食農教育活動、地域の役職を引き受けていくこととなりました。平成7年には農村生活アドバイザー認定制度が始まり、認定を受けました。経営を強く支える時期でありながらも女性農業者のリーダーとして活躍され、平成11年度から翌年度にかけて愛知県生活改善実行グループの副会長を務めました。

平成13年には八開村民生委員（主任児童委員）に就任。3期9年にわたって活動するかたわら、平成15年には読み語りボランティアグループ「紙ふうせん」を立ち上げ、現在にいたるまで愛西市のみならず近隣市町村への出前授業や読み聞かせに積極的に参加しています。

市町村合併を経て、平成23年には愛西市農業委員に就任しました。農地巡回など役割を果たす一方で、小学生を対象とした食農教育や教職員を対象とした味噌づくり指導などは、他の女性農業委員も同行し、委員の研修の場として、活動の場を広げています。これらの活動が評価され、当初2名であった女性委員は平成26年の改選時には、4名まで拡大することに寄与するとともに海部地域の女性農業委員ネットワークを組織し、女性農業者の資質向上に努めました。

このように、飯田氏の活動は農業・農村振興に大きく貢献し、他の模範となっています。